



教えて！外務省！

知っておきたい国際協力 Vol.7

TICADを知ることで浮かび上がってくるアフリカの今の姿と、今夏に開催されるTICAD8のポイントを紹介します。

外務省 ODA 広報キャラクター ©DLE ODAマン

答えてくれた人

国際協力局国別開発協力三課 課長

西野修一さん

NISHINO Shuichi

1998年外務省入省。開発協力の重点事項の立案、防衛協力・交流、ASEAN、大洋州、西欧、SDGs・国際保健、在外公館の運営支援、人権等に携わる。現在はアフリカ、中東、欧州地域における二国間の開発協力を担当。



TICAD

Q TICADが目指していることは？

A アフリカが自分たちの力でさまざまな課題を解決できるようになることです。

TICADは、冷戦終結後にアフリカへの協力に対する先進国の関心が低下していた時代に、日本が立ち上げたアフリカ開発に関する国際的な話し合いの場です。1993年の第1回から第5回までは5年ごと、第6回からは3年ごとに開催されています。

アフリカには、紛争、貧困、エイズのような感染症などさまざまな課題がありますが、TICADでは立ち上げ当時から、アフリカ全体

やアフリカ諸国が協力を受けるだけでなく主体的に動き力を発揮する「オーナーシップ」を掲げています。アフリカの自主的な取り組みをサポートするのがTICADの大きな役割なのです。併せて日本の協力だけではなく、国際機関、民間企業、NGOなどと一緒に取り組むこと（パートナーシップ）も、ダイナミックに前進していくためには重要です。

世界の国の4分の1となる54か国を擁し、

2050年には約25億人もの人口になるといわれているアフリカは、国際社会のプレイヤーとして重要な存在です。それは経済的な面だけではなく、今のロシアによるウクライナ侵略のような危機が起きたとき、国際平和や国際秩序を守っていくためには、アフリカを含む世界中の国が国境を超えた連帯と協力をする必要があります。今回の危機で、そのことも明らかになったと感じています。

Q 日本が行っている協力とは？

A アフリカの将来を見据えた広がりのある技術協力やサポートを行っています。

橋や道路などのインフラ整備や、保健・衛生、教育などの分野をはじめ、日本はさまざまな協力をしてきました。そのどれもが、ただ建物を造ったり、資金援助をしただけではありません。橋ならどんなふうに管理すればいいのかを現地の人に教えたり、保健・衛生の分野ではユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC*) のもとで医師や看護師への研修を行ったり、教育であれば教師を育てたりするなど、人材育成にも力を入れています。それが結果的にアフリカのオーナーシップにつながっていくからです。ほかにも、人材育成の拠点となるような施設を造って、アフリカ内での自主的な広がりをもたせるような協力もしています。

また、TICADができて約30年近く経った現在、アフリカが自ら政治・経済・社会の長期的ビジョンを示す「アジェンダ2063」を作成したことに加え、アフリカ大陸の域内貿易を自由化する「アフリカ大陸自由貿易圏



日本型工学教育の特徴を取り入れたエジプト日本科学技術大学 (E-JUST) での授業風景。アフリカで国際水準の内容を学ぶことができる。

(AfCFTA*)」の運用が開始されるなど、アフリカのオーナーシップのもとに新しい動きも進み、その協力も行っています。

AfCFTAは、54か国あるアフリカがひとつになって取り組む大きな出来事です。その実現のために整えなければならないことは多くあります。そのひとつに健全で公正な競争を促進するためのルールづくりがあり、日本はそこで必要となる通関面の法整備と実施に向けた支援を行い、AfCFTAの発展に貢献しています。このほかにも新型コロナウイルス・ワクチンの大陸内での製造と普及を目指してアフリカが立ち上げた「アフリカ・ワクチン製造パートナーシップ」を後押しする取り組みを日本は始めています。

Q TICAD8でポイントとなるのはどんなこと？

A 新型コロナウイルス感染症によって浮き彫りになった課題を中心に話し合われます。



出典：官邸ホームページ

2019年8月28日～30日に横浜で開かれたTICAD7の様子。アフリカ53か国に加え、アメリカをはじめとする52か国の開発パートナー諸国、108の国際機関、民間企業や市民団体が参加した。

今年の8月27日、28日にTICAD8が開催されます。それに先立って、3月にTICAD8の方向性を話し合う閣僚会合がオンラインで開催されました。2019年の8月に開かれたTICAD7以降、新型コロナによって世界は大きく変わりました。TICAD8では、経済、社会、平和と安定を柱にし、新型コロナによってあらためて浮き彫りになった課題に重点をおいて話し合いを行います。

この課題のひとつが「人」です。アフリカでも新型コロナによって多くの方が亡くなっています。命を守っていくためには衛生・保健分野の強化をさらに行いながら、これからの未来を創造していく子どもや人材を育てていかなければなりません。さらに「成長の質」も課題に挙げられます。新型コロナのような危機が起きたときでも耐えられる強い経済社会が必要です。そのためには外部に依存せず自分たちで、DX (デジタルトランスフォーメーション) なども活用したイノベーションを起こし、発展できる経済にしていかなければならないのです。

TICADはアフリカとともに一緒に世界の未来をつくる場です。たがいに学び合える関係をより深めていけたらと期待しています。



©小松勇輝

子どもが自分で考え、行動する力を養う情操教育普及の一環として、ベナンでは運動会を開催。綱引きなど、日本でも馴染みのある種目が取り入れられた。



TICADについて

TICADの最新情報や関連情報については、外務省のウェブサイト(左のQRコード)をご確認ください。